能登地震

共同支援センター 通信

NO.20（5 月 17 日）
能登半島地震被災者共同支援センター
X@notosiensenta 〒925-0026 石川県羽咋市石野町ト 13-1
Mail:notosien@ymail.ne.jp 電話 0767-23-5107 FAX：5108

拡散希望

各地の被災地を訪れたボランティアや共産党員が、被災地の方、羽咋市の共同支援センターのご近所からどのように見られ、それをどう受け止めたのか、ご紹介します。

「食べ物まで持ってきて話を聞いてくれるなんて、他に無い」（仮設の板前さん）と言われ、「日本共産党が今本当に期待されている」
（竹内よしのり大阪１区国政対策委員長の手記）

穴水町川島の仮設住宅では40代の男性としばらく話になりました。「板前をやっていたが、とにかく今は仕事がない。なんでもやりたいのだが。同年代の友人も失業していて、見通しがたたない」「自民党や馳知事に期待してたのに、裏金だの機密費だの、こっちの事はほったらかしで腹が立つ。共産党さんは近寄りがたいイメージがあったけど、こうやって食べ物まで地べたに持ってきて話を聞いてくれるところなんて、他に無いよ。嬉しいわ」と、こちらが激励されました。

地区党の同志たちや読者・支持者のみなさんから託された募金や物資が、その一人ひとりの思いとともに目の前のこの方に届いたと感じた瞬間でした。苦難軽減で頑張る日本共産党が、いま本当に必要とされているし期待されている。そして本当にこの方たちの願いをかなえるには、国会でも地方議会でももっと多くの議席が必要だし、党を強く大きくすることが急務だと痛感しました。お聞きした声を大阪での活動に必ず生かす決意です。

「お米と水、生活物資を無償で配るなんて、まるで神様のよう」と言われ、「当然と思っていたことが、そんな風に見られていたのか」（五十嵐寛二・新潟ボランティア一元県議・市議）

羽咋市の共同センター近くの事務局スタッフが宿泊する旅館は料理店も経営しています。

先日、そこから私たち宿泊者に、たけのこご飯の差し入れがありました。あまりにおいしかったことからお礼に伺うと、店のご主人、奥さん、30 歳位の息子さんが出てきてくれました。息子さんがセンターの仕事を尋ねるので、「全国からきたボランティアが仮設に伺い、お米と水、生活用品の支援物資を無償でお届けし、困りごとを聞いています」と話すと、「まるで神様のようですね」と感心していました。

共産党の立党の原点の活動が被災地の人たちに感動をもって受け止められていると感じました。